

地域に内在し世界を構想する JCAS Review

地域研究 Vol. 14 No. 2

特集1 | 紅い戦争の記憶 旧ソ連・中国・ベトナムを比較する

越野剛 / 前田しほ / 高山陽子 / 平山陽洋 / 田村容子 / 今井昭夫

特集2 | 「三つの祖国」に 生きる越境者

篠崎香織 / 村岡美奈 / 北美幸 / 奈倉京子 / 北村由美

第三回地域研究コンソーシアム賞 受賞者発表

● 地域研究コンソーシアム / JAPAN CONSORTIUM FOR AREA STUDIES

紅い戦争の記憶

旧ソ連・中国・ベトナムを比較する

私たちは物語のなかで生きている。豊かで安全で自由な暮らしを求めるだけでなく、私たちが世界に意味づける物語を欲している。戦争や革命は、新しい社会を支える新しい物語を作り出すとともに、古い物語や個人の物語の再編を促す。社会の凝集性を高めることが一人一人の豊かさを約束するわけではないことが明らかになりつつある今日、国家の記憶、社会の記憶、個人の記憶が互いに交錯するなかで、私たちはどのような物語を紡ぐのか。

「三つの祖国」に生きる 越境者

私たちが生きる意味を支える場は、私たちが生まれ育った国境のなかに収まるとは限らない。生きるために国境を越え、思想の場を越え、生活の場を変えてきた人々は、自分が生きた軌跡をどこに残すのか。国境を越えた移動により互いに異なる経歴を背負う人々が出会う機会が増えていながら、あるいは増えていくからこそ、いまなお民族という物語が互いに相反する主張をぶつけあうなかで、民族の枠組みを越えた新しい物語の可能性を探る。

〔巻頭言〕レバノンから見えてくる中東

白杵 陽

004

〔特集1〕紅い戦争の記憶——旧ソ連・中国・ベトナムを比較する

〔特集にあたって〕社会主義圏の戦争の記憶を比較する

越野 剛

008

〔第一部〕刻まれる記憶——紅い戦争のプロパガンダ

ロシアの戦争記念碑における兵士と母親イメージ

——国民統合のジェンダー・バランス

前田しほ

017

英雄の表象——中国の烈士陵園を中心に

オフシヤル

高山陽子

043

ベトナムにおける公式的な戦争の記憶

——記念碑と戦争展示をめぐる考察

平山陽洋

059

〔第二部〕紡がれる物語——社会主義と戦争のもうひとつの記憶

ハティニ虐殺とベラルーシにおける戦争の記憶

越野 剛

075

革命叙事と女性兵士——中国のプロパガンダ芸術における戦闘する女性像……

田村容子

092

ベトナムにおける戦争の記憶の「社会化」

——「捕虜となった革命戦士博物館」の事例を通して……

今井昭夫

112

「特集2」「三つの祖国」に生きる越境者

「特集にあたって」「三つの祖国」——ルーツの祖国、暮らしの祖国、理念の祖国……

篠崎香織

128

日露戦争期のアメリカ・ユダヤ人——ダヴィデに例えられた日本……

村岡美奈

140

アメリカ・ユダヤ人とブランダイス大学

——「社会的正義」のホームとしての可能性……

北 美幸

162

中華民国の成立とペナンの華人

——越境を生きたるための複数の場における政治参加……

篠崎香織

178

中国系移民の複合的な「ホーム」

——あるミャンマー帰国華僑女性のライフヒストリーを事例として……

奈倉京子

199

「西」への道——オランダにおけるインドネシア出身華人の軌跡……

北村由美

219

第三回地域研究コンソーシアム賞 受賞者発表

『地域研究』一三巻二号 特集へのコメント……

240

264

第四回(二〇一四年度)地域研究コンソーシアム賞 募集要項

趣旨

地域研究コンソーシアムは、その規約において「国家や地域を横断する学際的な地域研究を推進するとともに、その基盤としての地域研究関連諸組織を連携する研究実施・支援体制を構築することを目的とする。これにより、人文・社会科学系および自然科学系の諸学問を統合する新たな知の営みとしての地域研究のさらなる進展を図る」と述べ、それに続いて、一、共同研究の企画・実施・支援、二、海外研究拠点の設置運営と国際的な共同研究・臨地研究の企画・実施、三、研究成果の国内外への発信・出版、四、地域研究情報の相互活用・共有化と公開という具体的目標を掲げている。

地域研究コンソーシアム賞は、右記の目標を達成する上で大きな貢献のあった研究業績、共同研究企画、そして社会連携活動を広く顕彰することを目的として授与される。

顕彰部門

一、地域研究コンソーシアム研究作品賞……個人ないし共同による学術研究業績で、賞の趣旨に合致する公刊論文ないし図書の作品を対象とする。

二、地域研究コンソーシアム登竜賞……大学院生および最

終学歴修了後一〇年程度以内を目安とする研究者による学術研究業績で、賞の趣旨に合致する公刊論文ないし図書の作品を対象とする。

三、地域研究コンソーシアム研究企画賞……共同研究企画で、賞の趣旨に合致し、今後の地域研究の動向に対して大きなインパクトを与えたシンポジウムの開催や研究プロジェクトの遂行などの企画を対象とする。

四、地域研究コンソーシアム社会連携賞……学術研究以外の分野で賞の趣旨に合致する活動実績を対象とする。

推薦

地域研究コンソーシアム賞は自薦ないし他薦をもとに選考される。

推薦者は個人に限る。また、推薦書の記載は日本語に限る。推薦者は複数の作品、企画、活動を推薦できるが、同一の作品、企画、活動を複数の部門に重複して推薦することはできない。また、一人の個人または一つの組織について推薦できるのは原則として一つの作品、企画、活動とする。推薦書の様式はとくに定めがないが、以下の各項目を記入すること。

①推薦者の氏名、所属・職名、主な経歴・研究活動業績

② 推薦部門（研究作品賞・登竜賞・研究企画賞・社会連携賞のいずれか）

③ 推薦対象の作品・企画・活動の概要……作品の場合は書誌情報と概要、企画の場合は企画の名称と概要、活動の場合は活動の名称と概要。いずれも一〇〇〇字以内（図表等を入る場合、図表等は一〇〇〇字に含めない）。研究作品賞と登竜賞で推薦対象が論文である場合は写しを一部添えること。研究企画賞と社会連携賞への応募では、企画や活動に係わる資料を添付してよい。

④ 推薦理由……一〇〇〇字以内。地域研究コンソーシアム賞の顕彰目的を踏まえた推薦理由。

⑤ 推薦対象と推薦者の関係……他薦の場合は推薦者と推薦対象（者）との関係を明記。

各部門の推薦対象は以下の通りとする。

一、研究作品賞……前年度（二〇一三年度）および前々年度（二〇一二年度）に公刊された論文ないし図書の作品を推薦の対象とする。推薦された作品の中から研究作品賞を授与する。

二、登竜賞……大学院生および最終学歴修了後一〇年程度以内を目安とする研究者によって前年度（二〇一三年度）および前々年度（二〇一二年度）に公刊された論文ないし図書の作品を推薦の対象とする（「登竜賞」の選考対象には博士論文も含まれる）。推薦された作品の中から登竜賞を授与する。

三、研究企画賞……前年度（二〇一三年度）および前々年度（二〇一二年度）に実施された共同研究企画の実績を推薦の対象とする。推薦された企画の中から研究企画賞を授与する。

四、社会連携賞……前年度（二〇一三年度）ないしそれ以前から行われてきた研究以外の活動で、地域研究の発展に寄与する実績を推薦の対象とする。推薦された活動実績の中から社会連携賞を授与する。

選考

審査委員会は地域研究コンソーシアムの委嘱を受けた五名程度の専門家で構成される。

審査委員

家田修、高木正洋、長崎暢子、西村成雄、二村久則（敬称略、五十音順）

顕彰

一、年次集会で授賞式を行い、審査委員会による講評、会長による賞状の授与、受賞者による受賞スピーチを行う。
二、『地域研究』誌上で審査講評と受賞対象の概要を掲載する。図書が受賞対象となった場合は書評として掲載することもありうる。

三、地域研究コンソーシアム・ホームページに審査講評と受賞対象の概要を掲載する。

募集

応募締切……二〇一四年五月七日（必着）

表紙写真

ベラルーシ、ハティニの「不屈の人」

(田村容子撮影)

中国、瀋陽中山広場の「毛沢東思想勝利万歳」

(高山陽子撮影)

目次写真

中国、北京農業展覧館の「慶豊収(豊作を祝う)」

(高山陽子撮影)

『地域研究』刊行にあたって

グローバル化の進む今日、世界の各地は緊密に連関し、また共通の課題に直面しています。その変化や課題が展開されているのは、人々の生きる現場である「地域」です。『地域研究』は、地域の総合的理解を目指す地域研究のフォーラム誌として、世界各地を対象とする多様な研究を結び、地域の視点から問題を提起し、「地域から世界を考える」ことを目標に刊行されます。

『地域研究』は、地域研究にかかわる全国の研究教育機関、研究プロジェクト、学会、市民組織や国際機関などが参加する地域研究コンソーシアム（JCAS）に編集委員会をおき、多様な研究対象地域やアプローチをもつ研究者が協力して編集しています。年2回の刊行はJCAS事務局を担当する京都大学地域研究統合情報センターが行っています。

投稿のご案内

『地域研究』では、特集企画案および個別論文を公募しています。特集企画案は編集委員会で検討し採否を決定します。個別論文は、査読を経たのち、編集委員会で採否を決定します。公募要領および執筆要項などの詳細は、地域研究コンソーシアムのホームページ (<http://www.jcas.jp>) に掲載しています。また刊行担当 (journal@cias.kyoto-u.ac.jp) にメールにてご相談いただくこともできます。

地域に立脚した視点から広く「世界」を考える企画・論考を歓迎します。ふるってご応募ください。

『地域研究』編集委員会 (2014年3月現在)

白 杵 陽	日本女子大学文学部 (委員長)
猪 口 孝	新潟県立大学
北 村 由美	京都大学附属図書館研究開発室
越 野 剛	北海道大学スラブ研究センター
篠 崎 香織	北九州市立大学外国語学部
西 芳 実	京都大学地域研究統合情報センター (刊行担当)
福武慎太郎	上智大学総合グローバル学部
柳 澤 雅之	京都大学地域研究統合情報センター
山 本 博之	京都大学地域研究統合情報センター

編集後記

冷戦終結から四半世紀が経とうとしています。この間、豊かさや正義を追求する「大きな物語」の共有が難しくなる一方で、それぞれの「小さな物語」を編み直し繋ぎ合わせる試みが続けられてきました。本号では、戦争や越境といった出来事に人びとがどのように対応してきたかを記憶や物語の再編や継承という側面から迫ります。

(刊行担当 西 芳実)

地域研究 Vol.14 No.2

初版発行	2014年3月31日
編集	地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会
発行	京都大学地域研究統合情報センター 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 journal@cias.kyoto-u.ac.jp http://www.cias.kyoto-u.ac.jp
制作・発売	株式会社 昭和堂 〒606-8224 京都市左京区北白川京大農学部前 電話075-706-8818 / FAX 075-706-8878 振替01060-5-9347 http://www.showado-kyoto.jp/

印刷 亜細亜印刷

© 地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会 2014

Printed in Japan

ISSN 1349-5038

ISBN978-4-8122-1409-1